

電子写真機變愛

第九夜

お待たせしました X-Pro2。愛で、撮って、楽しむ毎日。

51200まで引き上げられ撮影の領域がますます広がりました。このほかにもシャッター速度やストロボのシンクロ速度も引き上げられてそれぞれ1/40000秒から1/80000秒、1/180秒から1/250秒、連写速度も6コマ/秒から8コマ/秒へ向上と撮影基本性能が全体的に引き上げられて力強いカメラとなったのです。さらに電子シャッターも搭載され、その最速シャッター速度は1/32000。電子シャッターではシャッター音も消せるので静音な場所でも静寂を破るような無料なことをせずに済みます。そのほかにも光学式(OVF)と電子式(EVF)ビューファインダーを切り替えることができるので被写体の速度や撮影状況、または好みでといった具合に使い分けることができるハイブリッドファインダーも健在。よりクリアでより精細にタイムラグを感じないまでに進化。疑り深いヒト、あるいはよりピントをシリアスに合わせたといった要望に応え、OVFとEVFを同時に表示してEVFのピント箇所を拡大して示すことができる小窓など文章ではちょっと伝わらないけど、実際に見てみると「おもしろい」と「ピントばっちり」となる機能も充実。好評のアドバンスドフィルムモードもより磨かれて映像の仕上がりに貢献しております。また、ありそいで案外少ない5段階の露出補正量も個人的には嬉しい限り。いま「え？」と思ったヒト、自分のカメラを見てみ「13・0」までがほとんどだから。すんこい厳しい光線だとか

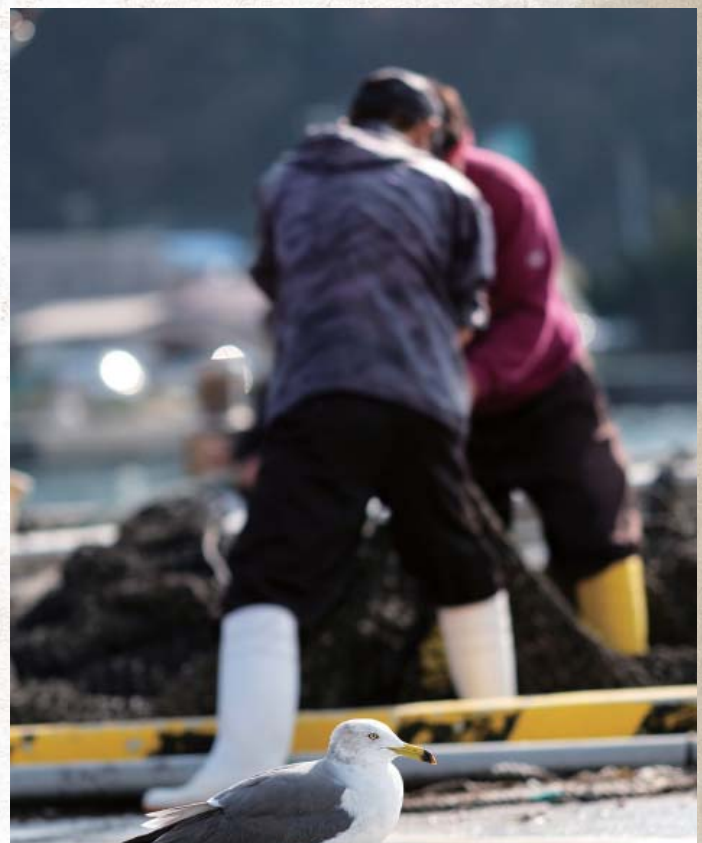
いろいろな写真に戀をする



ワイドレンズ
XF 16mm F1.4 R WR
 価格オープン (実勢13万円前後)
 35ミリ判換算で広角24ミリ相当の単焦点レンズとして世界最短の撮影距離15cmを実現し、防塵防滴と耐低温構造を備えたフジノンレンズシリーズの最新鋭超広角撮影担当ワイドレンズ。超広角域となる24ミリ相当なのに開放値がF1.4というのもポイント高く、撮り勝手がいい、それでいて割合コンパクトで軽さと価格以外に欠点が見当たらない交換レンズ。しかし実は価格も某フルサイズ用レンズの半値以下のリーズナブルさというのも忘れてはならないのであります。



シャッタースピード:1/850
 絞り:F5.6
 ISO感度:200
 アドバンスドフィルター:
 ダイナミックトーン使用



望遠レンズ
XF 90mm F2 R LM WR
 価格オープン (実勢11万円前後)
 X-Pro2に装着すると35ミリ判換算で137ミリ相当の中望遠レンズ。F2というズームレンズにはない明るい開放F値を活かした立体感のある写真を撮りたいときにオススめのレンズです。ふつうこういった開放F値の大口径レンズを使用すると旧来の位相差AF機だとフォーカスが微妙、あるいはやや厳しい面がありましたがX-Pro2では273点あるどのAFエリアポイントでもパチピン。素晴らしいほどにオートフォーカスが効くので、マニュアルピントリングのトルク感も素晴らしい出来なのにもったいない。

シャッタースピード:1/3000
 絞り:F2
 ISO感度:200
 フィルムシミュレーションスタンダード



写真と文 織本知之
 姉妹誌コンパクトマガジンのほうでも最近ほつりばつりサバイバルゲームネタを寄稿させていただいております。サバゲは勇壮で爽快なレジャーであります。カメラより細かい道具の種類が多いこと、おなじみの鉄砲でもメーカーが異なれば長も性格もまた違う、知れば知るほど頼もる世界。ハマるとアチラも底が無く注意されたし。

ライイ3・0よりもつ少し欲しい時がタマにありません。で、そんな厳しい状況でも傑作をモノにできそうなポテンシャルを秘めたフジノンレンズを何本かご紹介いたします。まずはじめのエントリーとして標準レンズからまいります。AF高速、軽量コンパクト、それでいて極めてシャープな新標準単焦点XF 35mm F2 R WRなぞいかがでしょうか。防塵防滴ボディになったX-Pro2にぴったりの防塵防滴機能付きレンズです。絞り開放から安定感のある描写能力が魅力の一本です。ワイドレンズはXF 16mm F1.4 R WRでキマリですね。35mm判換算24ミリの広大な画角と、F1.4の大口径のボケ味が堪りません。一般的というよりもちょっとコアな御仁にこそこの良さを味わっていただきたいと存じます。こちらもタフな使用を想定して防塵防滴耐低温構造、いかなる場所でもその描写性能を發揮いたします。そしてキレイな描写と、そのこの望遠効果を欲するのならこのレンズ、XF 90mm F2 R LM WR。F2の絞り開放からフォーカス部分のキツパリとしてカッチリした描写、アウトフォーカスの美しいボケ具合、そしてAFの素直さを確かさ、レンズとしての質感の高さと非の打ちどころが無い上質レンズでございます。ただし、普段使いには望遠気味だしやや重いし、そもそも値段段も結構いい品なので明確な目的をもった方にこそオススメしたいこの一本。レンズラインナップも充分、発表するボディは代を重ねることに素晴らしさを増す富士フィルムの気鋭の一台、X-Pro2をぜひ。

この解像感

(撮影はベータ機であります)と注意書きを入れなければならない市販前モデルなのでXF35mm F2 R WRのシャープさがスゲエとか、やっば2430万画素クラスになると精細感がものすごいとか、あまり解像度についての言及は避けなければならないが、まず市販前モデルのほうが性能アップするのでもますます問題無し。



(ベータ機の写真をよりにもよって拡大しちゃいました!)このカットは薄暮の雑踏をXF35mm F2 R WRの開放絞りでスナップした写真の中央を拡大したものです。おそろしいほどのディテールを描写してますね、いいほうの意味でなんだコレハ……となります。

本気レンズもりもり

富士フィルムの誇るフジノンレンズはまったくもってハズレ玉が出ないというのがそのスジの愛好家たちの意見。すべてのレンズに惜しみない技術が投入されており、とくにこの90mm F2や16mm F1.4のようなキレキレ単焦点レンズには欠点が見当たらずウルサ方の評論家ですら、叩きようがないくらい秀逸レンズです。そんなレンズがもりもり用意されてます。



悲願のダブル化!



どうですか、この盤石の風景。職業写真家たちを安心させる光景です。いえ、最近のカメラならシングルでもまったく問題ないのですが、起きやしない方が一に備えるビビリ……失礼、慎重な性格の人物が多いのが写真家。これでバックアップも保存できるので安心安全。ダブルの効果も多い日でも安心(いえ、カット数が)。

富士フィルム X-Pro2

ボディ価格オープン (実勢22万円前後)



メタルハンドグリップ
 価格1万8360円

装着レンズはXF35mm F2 R WR /
 価格オープン(実勢5万円前後)
 +穴あきフード / 価格7884円

ボトムレザークース
 価格1万5120円

有効2430万画素 X-Trans CMOS III センサー
 フルHD動画
 チルト3型約162万ドット背面液晶
 幅108×高さ66.6×厚み35mm / 約445g(いずれも本体のみ)
 ©富士フィルムFinePixサポートセンター
 ☎050-3786-1060



「勤 勉」

「努力」「忠誠」を好む方を、もしくは狡猾陰険性悪を忌み嫌う方、あるいは手加減とか妥協とか譲渡などを潔くしない方へ。おまたせしました、富士フィルムからX-Pro2の登場であります。

先代X-Pro1より4年ぶりのフルモデルチェンジでありますこのX-Pro2、実に正しく進化してまいりました。操作系のブラッシュアップを計った背面のボタン、ダイヤル配置はひと目で違いがわかりますが「正面からの行まいは「違いは……ええと？」というレベルであります。よくみるとAF補助光ランプが四角になっていたり、フロントコマンドダイヤルが新設されていたり、ボディも若干大きく重くなりましたが先代のクラシカルなデザインを踏襲しています。先代の意志を尊重し実直に家業を受け継ぐ、出来た「二代目」という風情がこぼれます。そうです、格好よければそんなに愛する必要はないんです。愛されるデザイン、伝統のラインというのには存在するのです。ボリスエとかガバメントとかひとめで「おっ!」ってわかるシルエットがマニアにはたまらんとす。このX-Pro1シリーズもシルエットでそれとわかるカッコ良さを継承。そのかわり中身は別物。APS-Cサイズの記録素子は1630万画素から大幅にアップされた約2430万画素X-Trans CMOS IIIに、メモリーカードスロットも安心のデュアルカードスロット、X-Pro1では撮影感度は最大でISO6400、拡張感度でISO25600だったのがX-Pro2では撮影感度ISO12800、拡張感度ISO